

雨がふるたびに少しずつ暖くなる季節となりました。2月14日に、新入生となる子どもたちが、1年生と一緒に工作をしたり、学校を探検したりしました。「また、遊ぼうね」と新年度を楽しみにしている様子が見えました。そして、3月16日は卒業式です。第2期生の「最後の授業」に、3～5年生の在校生が参加し、あとを引き継ぎます。少しずつではありますが、新年度への準備が始まっています。

あいさつする子  
しっかり学ぶ子  
たのしく遊ぶ子

○豊かな心を育みます

## 人との出会いが心をたがやす

### 100万回生きたねこ 2/8

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を受けて、劇団たんぽぽの劇「100万回生きたねこ」を全児童で鑑賞しました。10名の6年生が、ピエロ役などで出演しました。

○ねこが100万回も生きたなんて、これが本当のことならすごいと思います。でも、このねこは、とてもかわいそうだと思います。なぜなら、自由に生活できずに、飼い主にかわいがられていたけど、ほとんど飼い主の自分勝手なかわいがり方だったからです。

6年生の人たちは、いったいつ練習したんだろう？私も、今日の6年生みたいに、いつかあんなげきをしてみたいと思いました。(中学年)

○本と同じげきをしてくれました。ねこやどろぼう、王様が出てきました。セリフもしっかり覚えていて、すごいなと思いました。サーカスの場面で6年生の子が一輪車に乗って、手をつないでいたこともすごいなと思いました。(低学年)

○私は、母から「私たちが生まれるのは、学ぶために生まれるの。だから、数十年の短い命で何かを学んで、生きて、やっとなの世へ帰れることができるの」と教えられました。あのねこは、白ねここと出会って、人を愛するというを学んだから生き返らなかったと思います。(高学年)



○ねこや人間もそうだけど、だれか愛する人がいるだけで「絶対死にたくない」と思えることを教えてくれてありがとう。(中学年)

○100万回も生き返れたのは、神様がその生きるチャンスを与えてくれたのだと思います。最後のトラが100万回泣くシーンは、本でも劇でも感動しました。ここで、初めてトラは「死ぬのがこわい」と思ったんじゃないかなと思います。途中、トラが、泥棒とかおばあさんとかのところでいて、人間とか生き物はイヤという感じがあったと思います。でも、それを乗り越えて白ねこに出会えたのだから、トラはすごく幸せ者だと思いました。(高学年)



○今まで死んで生き返ったのは、たぶん人間に愛されても、自分が好きじゃなかったからだと思います。そして、最後に生き返らなかったのは、同じ生き物を好きになれたし、自分も好きになって、やっと、人から愛されてうれしいことを知ったからだだと思います。だから、幸せのまま生き返らなかったんだと思います。(高学年)

○ねこの演技は、すごい迫力がありました。歌うときもセリフも声が大きくて、まねしたいと思いました。トラは何回死んでもこわくないと思っていたけど、白ねこに出会ってから「ずっと生きられたらいいのに、死にたくないな。」と思っていたから、運命をかえた白ねこはすごいなあとと思いました。(中学年)

○こうえんが終わったとき、中はどうなっているのかなどを見せてもらいました。3びきのねこの人形を使っていました。わたしはびっくりしました。ねこにもさわらせてもらってうれしかったです。舞台にも上がらせてもらいました。(低学年)

○豊かな心を育みます

## クラブ見学をしたよ 2/16

3年生が、4年生になったときに入るクラブ活動の見学をしました。バスケットボール、バドミントン、ソフトボール、料理、手芸、理科の6つのクラブを順番に回り、4年生になったらどこに入るか、みんな真剣に悩んでいました。



○健やかな体を育みます

## がんばったよ マラソン大会

2月は、各学年で、体育の授業中に持久走の記録をとりました。1・2年生は600m、3・4年生は1200m、5・6年生は1800m走りました。1月から練習に取り組んでいたため、はじめよりタイムが縮んだ児童が多かったようです。学年の上位3名が体育委員会から表彰されました。



## しっかり食べたよ すっからカン!

給食委員会が、学校給食週間中(1/24～30)に「すっからカン週間」の取り組みをしました。毎日、給食の大おかずと小おかずの食缶を空っぽにして返却したクラスが、2月14日に表彰されました。給食に携わるすべての方に感謝して食べました。

表彰されたクラス  
1-2 ・ 2-1  
3-2 ・ 5-1



大切に読みます

○確かな学力の向上に努めます

## よりよい方法を考えよう 2/10

4年生が算数の研究授業をしました。長方形や正方形の面積の公式を学習した後、長方形や正方形が組み合わさったような複合図形の面積を求める方法を考えました。「2つの長方形にわけて、あとでたす方法」「ない部分もあると見なして、あとで引く方法」「切り取って移動させ、1つの長方形に変形させる方法」などを使って、面積を求めました。図形の形によってどの方法が便利かを、グループや学級全体で話し合いました。「どうしてそこが4cmなのかわからないので教えてください」という質問などに、子どもたちは自分の言葉で説明し、質問者は納得できると「わかったことは〇〇です。ありがとうございます。」と答えていました。岡山大学大学院の佐藤暁教授から、1年間取り組んできて、子どもたちの自分たちで学ぼうという姿勢が育っていることをほめていただきました。



河崎会様から、本のご寄附をいただきました。河崎会文庫として大切に使用させていただきます。ありがとうございました。